

研究課題：遺伝性ネフローゼ症候群における末期腎不全移行時期の臨床的予測因子

1. 研究の目的

根本治療のない遺伝性糸球体疾患は末期腎不全の移行時期と腎代替療法導入を見据えた長期的な管理が必要となり、遺伝学的背景と末期腎不全への移行時期の関連性は多く報告されていますが、ときに遺伝学的背景に関連なくネフローゼ症候群合併後急激に末期腎不全に至る例も散見されます。しかし、ネフローゼ症候群合併時に臨床的に末期腎不全への到達時期を予測した報告はありません。本研究では、遺伝性糸球体疾患の患者様がネフローゼ症候群を合併し末期腎不全に至るまでの時期を検討します。ネフローゼ症候群合併から末期腎不全までの期間の予測因子が判明すれば、有用な情報となります。

2. 研究の方法

当院で2005年1月から2025年2月までに遺伝性糸球体疾患と診断し、後にネフローゼ症候群を合併した患者様が対象になります。診療録から、臨床的背景（尿検査異常指摘年齢、当院初診時の血液検査・尿検査、尿所見以外の異常の有無）、腎生検の組織学的結果、遺伝学的検査結果、腎保護薬開始の有無、ネフローゼ症候群合併時の背景（年齢、診断からネフローゼ症候群までの期間、血液検査・尿検査結果、治療内容）、最終観察時の背景（血液・尿検査データ、末期腎不全の有無、最終治療）、等の情報を調べてまとめます。

3. 研究期間

倫理委員会で承認を得られた日から2027年3月31日まで。

4. 研究に用いる資料・情報の種類

ネフローゼ症候群を合併し末期腎不全に移行した遺伝性腎疾患の検討のため、上記2.に記載したような項目を、カルテの記載および検体検査結果から調べまとめます。画像（個人情報は一切含まない）が論文内に掲載されることがあります。

5. 外部への資料・情報の提供、研究成果の公表

この研究で得られた結果は、医学雑誌などに公表されることがありますが、患者様の名前など個人情報は一切分からないようにしますので、プライバシーは守られます。また、この研究で得られたデータが本研究の目的以外に使用されることはありません。

6. 研究組織

研究機関：地方独立行政法人埼玉県立病院機構 埼玉県立小児医療センター

研究責任者：腎臓科 科長兼副部長 藤永 周一郎

研究分担者：腎臓科 医長 櫻谷 浩志

研究分担者：腎臓科 医長 横田 俊介

研究分担者：腎臓科 医員 松田 明奈

研究分担者：腎臓科 医員 坂口 晴英

研究分担者：腎臓科 医員 齋藤 佳奈子

7. お問い合わせ先・研究への参加を希望しない場合の連絡先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、資料・情報が当該研究に用いられることについて患者様もしくは患者様の代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としますので、2026年3月31日までに下記の連絡先へお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

地方独立行政法人埼玉県立病院機構

埼玉県立小児医療センター

医事担当（代表 048-601-2200）